

# いろいろな産地のキハダで試験地をつくる

## 1. キハダについて

みなさんは、キハダをご存じでしょうか。この樹木は、ミカンの仲間の落葉樹で、雄の木と雌の木があります。その特徴的な黄色い内樹皮（図-1）は、抗菌、血圧降下、解熱などの作用があるベルベリンという物質を多く含み、乾燥させて黄柏<sup>おうぱく</sup>として胃薬などに使用されています。キハダには、このような機能性樹木としての需要が期待されています。



図-1 キハダの成木(左)と内樹皮(右)

## 2. キハダの試験地を造る

キハダは、北海道から九州までの広い範囲に分布しています。そこで、この分布域をできるだけカバーするように、林木育種センターと各育種場がある地域に生育する個体から種子を集めました（図-2）。



図-2 種子の産地 (●)

林木育種センターでは、これらの種子から育てた苗木の成長とベルベリンの含有量について、遺伝する特徴や育った環境が与える影響を調べるために、試験地をつくっています。令和2年度には、長野県にある霊仙寺山国有林に、25本の母樹の種子から育てた苗木500本をランダムに植えました（図-3）。植え終わった後には、苗木の高さと根元の直径を測りました（図-4）。

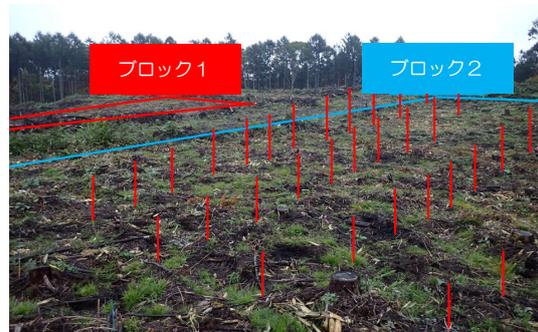


図-3 試験地：赤棒の位置に苗木を植えました。



図-4 苗木(左)と調査の様子(中・右)

## 3. 今後について

植栽してから5年ごとに20年目までは、キハダの高さと胸の位置の直径（地上高120cm）を測ります。また、20年目には、ベルベリンの含有量を測定する予定です。成長が良く、ベルベリンが多く採れるキハダが見つかることを願っています。

（遺伝資源部探索収集課 竹中 拓馬）